

キウシト湿原への思い

貴重な動植物が生息するキウシト湿原。そこには何物にも代えがたい多くの人々の思いが生きています。

—自然を守り、未来へつなぐ—

子どもたちに残したい



市とともに、キウシト湿原の保全活動を行っている『NPO法人キウシト湿原・登別』。会では、夏のこの時期、毎週のように手作業で草抜きを行ったり、湿原のガイドを行ったりと、たいへんな情熱を傾けながら、その保全に努めています。

「絶滅危惧種などが生息するキウシト湿原は、登別の原風景を後世に伝える大切な道しるべです。身近な自然が少なくなる中で、次世代を担う子どもたちのためにも、登別の貴重な財産であるこの自然を残していきたい」と語るのは同団体の理事長・堀本宏さん。

キウシト湿原が、乾燥化による外来植物の繁茂や栄養価の高い水が流入したことでほかの植物が成長し、

ワラミズゴケが消えてしまう危機に見舞われたときには、「貴重な湿原を失ってはいけない」と、市とともにワーキンググループを立ち上げたことを振り返ります。

「市や市民、そして専門家によるこのワーキンググループでは、何度も会議を開き、キウシト湿原の保全という1つの目標に向かって互いができることに取り組みました。キウシト湿原は、キウシト湿原を守ろうとするさまざまな方の『協働』が形になったものです。現在も、外来種の問題や一部エリアの乾燥化などは



子どもたちに貴重な自然を残したい、と語る理事長の堀本宏さん。



網でホタル池にいる水中の生物を探す。



木道を利用する人が歩きやすいよう伸びた草を刈り取る『NPO法人キウシト湿原・登別』のメンバー。



整備された木道では安全に湿原を楽しむことができる。



児童による外来植物の駆除体験など、市内小学校の総合学習でも利用されている。